

2013春闘、会社から出てきたのは時代に逆行する低い回答！**団交報告**

一旦、9月5日に設定されていたが会社都合で延期されていた団交が9月24日、14:30より第3貨物ビル2階大会議室において、開かれました。会社側出席者は田中業務本部長、パトリシア人事部長、安藤女史、松永女史でした。冒頭、松本シニアマネージャーが招かれて新しく通関部で始まるAPACコアプロジェクトの説明があり、説明が終わると団体交渉前に退席されました。新体制となった第25期組合執行部と会社側出席者の自己紹介から始まり、次に田中業務本部長から2013年度の春闘組合要求に対して回答がありました。

■2013年春闘 会社回答はサラリーインク्रीス0.8%！

賃金に関する要求 : ベースアップを6,000円要求する。

回答：慎重に検討した結果、会社は平均0.8%のサラリーインク्रीスを実施します。

未回答であった賃金に関する要求に対して会社はTCBRの結果が出たとして回答の書面を出してきました。内容は平均0.8%のサラリーインク्रीスを実施するというもので、書面を受けとった赤坂委員長に「何と言ってよいかわからない」といわせる低い数字でした。会社側はこれについての補足説明として、会社をとりまく環境、米国内やヨーロッパの経済状況が非常に不安定であるということが背景にあって我々に影響している。またパッケージのボリュームは若干ながら伸びているがIPからIEへの移行が積極的でその為レベニューが伴わない、利益率が低下しており20%減である。他の主要企業が好調な市場と摺合せができず市場の平均(経団連平均1.83%)から見ると低い数値になっているが、このような状況の中で会社はメディカルや、エアロパーツなどの輸送に力を入れるなど営業努力や、少し前に米国で早期退職を募るなど組織のスリム化をはかる努力をしており、何とか昇給のために用意できたのが0.8%であると説明した。

これに対して組合は今回の団交で即答せず書面を受け取り持ち帰るとしましたが、私たちの昇給は10月で、すぐに来年4月の消費税増税8%が控えているため生活が苦しくなることが予想される、また、安倍首相が経済界に賃上げ要請をし、経団連の米倉会長は「賃金は増えると思う」と述べるなど市場の好循環の流れが進む中フェデックスは取り残されていくことが懸念されることを会社側に伝え、会社側はこれをアップーマネジメントへ伝えると述べました。

春闘以外の議題では、組合側は、PISTONが始まっているがこれにより社員の業務量は劇的に増えている。フライトが減るといっているが実際は減っていない。部署によってはワークアワーの少ない再雇用者を含めた体制で、人数的にぎりぎりの状態を通り越したショートマンパワーで業務をこなしており、様々な部署でバケーションが取りにくい、スケジュールを組むことが困難になっている等の状況である、アップーマネージャーは現状をきちんと把握しているのかと訴へると、会社としては部署間で人を移動させたりベンダーを採用するなどの対処を考えていると述べました。

パトリシア人事部長に、PAがパフォーマンスボーナスに対しても掛かっているため二重査定になっている事と、今年から一時金が組み込まれることでPAの一点の格差が非常に大きくなってしまってくる事、をあらためて説明しました。

静岡支部ができました！

9月8日に静岡営業所に赤坂委員長、道阪副委員長が訪れて組合説明会を行い、その際に同営業所から新規組合加入者が4人ありました。組合としては静岡支部を結成することとなり、さらに同営業所から4人追加加入者があると見込まれている為、静岡営業所では社員の過半数が組合員となり静岡営業所の従業員代表も組合になる予定です。組合は9月24日の団交の場で会社側に口頭で静岡支部結成を伝え、さらにその場で9月8日のオルグで静岡の組合員から挙げられた声を会社に訴えました。静岡支部で話されたPA制度について言及しPA制度は相対査定ではなく絶対査定であると会社は明言し、現場のMGRを指導していくとしていました。

また、10月19日にはジャパン社の組合支部長ミーティングが予定されています。他部署同士が労働組合のもとに集まる機会ですから、日ごろの皆さんの声を持ち寄ってさらに団結を深めていくとともに、会社に対する要求を勝ち取る一歩にしましょう。